日伯コドモ新聞

日伯新聞附錄
伯國聖市マエストロ
カルヂン街一一〇九
（ヴェルゲイロ二五八）
發行所　日伯新聞社
【毎週一回發行】

共産黨に引ずられ なほも抗戰を喚く 蔣は全く生ける屍

蔣介石に、すつかり見きりをつけた、汪精衛は、國民黨の籍をけつて、重慶をあとにしましたが、汪精衛のみない、國民政府は、まつたく力を失ひ、共産黨のために　自由自在に引ずりながら、なほ抗戰をつゞけるありさまで、性こりない　蔣介石こそ哀れな最期にかけ足してゐるわけである

教科書も洋服も 同じ材料から——

大切な紙のお話

何もかも節約時代で皆さんが毎日使ふ紙も大切にせねばなりません。紙のうちで葉書や切手、印紙などは最近では稲藁から穂先までついたのをとかして紙にするのです。ボール紙のことを馬糞紙といひますが別に馬糞でつくつたわけではなく色が似てゐるからで、藁を石灰で煮て柔かくなつたのに壓力を加へて固めると馬糞紙になります。新聞紙はエゾ松やトド松（日本では北海道や樺太にあります）を機械で碎いて「碎木パルプ」をつくりそのパルプから紙をつくります。雜肥帆もこの碎木パルプからつくります。讀方や修身などの

教科書

は碎木でなく亞硫酸などで化學的に木材を溶かして「サルファイト・パルプ」をつくり、そのパルプから紙にします。サルファイト・パルプをヴイスコースといふ液體にしてノズルといふ〇・〇五ミリほどの小さい穴から吹きだすと人絹になり、その人絹を短く切つて紡げばスフです。つまり皆さんの教科書も洋服も着物ももとは同じ材木なのです。お淸書に使ふ紙や障子紙は和紙といつてコウゾやミツマタといふ木の皮、マニラ麻、山藤の蔓の皮、稲藁の穂に近い細い部分などから作ります。水に浸し、柔かくして叩くと繊維だけ殘るので、それに糊などを加へて板に伸し乾かすと紙になるのです。機械を使はないので手遲といひます

稲は穂

がお米になり、藁は屋根を葺き壁のスサになり、笠蓑、莚、疊の蕊、草履、草鞋になり、近ごろは着物（パルプからスフにします）にまでなり衣、食、住のすべてに役立つ上、勉强用の紙にまでなるのですから日本は瑞穂の國だとしみ〴〵思ひます。いまでは繩のきれはし、古俵でも大切にして學校とか町内とかへもちよつて、製紙會社へ賣いひます。（商工省大阪工業試驗所技師工學博士杉本俊三先生のお話）

借金の利拂ひも 出來なくなつた

國府遂に中止を發表

外國から金をかりてゐた國民政府は、いまこまつてほそ〴〵ながら利息をはらつてゐましたが、この頃ではその利息さへも拂へなくなつてしまつたので、利拂ひを中止した旨を發表しました、このためイギリスでは大さわぎとなり、支那の公債は著しく下落してゐるといつてゐます

寒風をついて奮戰 つひに京山を占領

皇軍更に附近を猛攻

いま皇軍は漢口の西北方百二十キロの地点にある　京山を中心に一大掃蕩戰をつづけてゐるが、十六日午前十時　つひに京山を占領しました。寒い風がビユウ〴〵と吹きまくる中に、兵隊さんたちの奮戰するすがたを思ふとき、わたくしたちは一層感謝の氣もちが深くなる。

日本のお友達は みんな親切です

支那人兒童故國へ放送

日本に住んでゐる支那人の子供さんが、AKから故國の少年少女たちに向け正しい日本の姿を放送しました。これは横濱市中區尖立小學校五年生近藤君（一二）と同じく陳鄭彰さん（一二）の二人で、日本の實話二ツづゝとともに次のやうな實葉を放送したのです。

故國の兄さん、姉さんたち　お元氣ですか。わたくしたちは長らく日本に住んで親しい友だちもたくさん出來ました。事變が起つても日本の友だちは平素とかはりなく親切にしてくれます。日本の少年少女たちが支那事變に出征した兵隊さんやその家族の人々につくす心づくしのかずかずには涙かされます。故國にはいまは新しい政治が生れました。日本のお友だちに負けないやうに新しい支那のために、みなさん一生けんめい勉强いたしませう。

（鄭彰はAKにおける汪君と陳さん）

雨の日

田中ナナ子

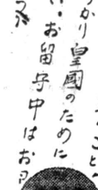
雨のしづくが電線をすべる
しづくのつなわたり
三本の線に
しづくがつなわたり
私は窓から見てゐた
息でくもつて見えなくなつた

（九歳作）

手向けの綴り方

今は亡き父勇士の靈前に涙の朗讀 父の出征

とても日本の女の歳を叫ばうとしたが萬感せまって聲が出ない私は『お父さん お家のことは ずぶしっかり皇國のために 立派にします』と共にしっかり



お國の爲に戰死したお父さんのお葬式に『父の出征』と題をつけた作文を、ふるへる手先で繰りひろげつゝ健氣にも鈴のやうなよく透る聲で讀み上げて亡き勇士の父の魂を慰めた一少女がありました。

この作文はいまは思ひ出となつたお父さんの出征なさつた時、作文の時間に書いたもので生先から賞められた記念のものでした。――寫眞は河北省のあちらこちらを匪賊部隊の下谷與一曹長も遂に去年九月五日塔底の戰ひで國の花と散つてしまひました。遺骨は日本の故郷、大阪市西本田通りにある故下谷曹長のお家へ屆けられて、町の人々の手によつてお葬式が擧げられました。その時、多勢のお友達と一緒に式に眼を濕ほして列んでゐた故曹長の長女、小學校六年生の下谷喜代子さん（一二）は式のなかば、やをら父の靈前に進むと携へた卷紙をふるへる手でひらげつゝ鈴のやうなよく透る聲で讀み上げました。……

「昭和十二年九月のある夜父が夏休みごろから待ちとがれてゐた召集令が下つた聖明父はにこにこしながら私にいふ、「たうとうおいでなすつたよ」と。私は涙が來たのかとさがしてゐたすると母は電報を私に見せた。いよ〳〵出征である。出征の日、外には出征の吹流しがいくすぢも立てゝあつた。父は「萬歳々々」と澤山の人におくられながら○○に向つた。それから半ケ月後、父は○○につきいよ〳〵戰地に向ふ日となつた。

空はからりと氣持よく晴れてゐた。○○港はもう人で一ぱいであつた。まばゆいばかりの日光に照らされながらテープがひらめいてゐる。やがて出船を知らせるドラがたつた。船に乘つてゐる兵隊さんたちは皆日の丸の扇をふりながら元氣よく、萬歳々々を叫んでゐた。船は汽笛を鳴らしたがらだん〳〵遠ざかつてゆく甲板に立つた父も帽をふりながらこちらを向いてゐる私たちのもつたテープがぷつりと切れた「あゝもうこれぎり二度と父にあふことができないか」と思ふと何だかさびしくなつて自然に涙がこみ上げてきた。こんなことでは日本の少女といはれない、で、心をとりなほして萬歳を叫ばうとしたが、萬感胸に迫つて聲がでない私は「お父さん、お家のことは心配せず、しつかり敵國のために功をたてゝ下さい、お留守中はお母さんとともにしつかりお家を守りますから」と胸の中で叫びたから日の丸の小旗を力のかぎりふつた。

「一光除矢の如し」といふが父の出征後早くも十ケ月の月日は水のごとく過ぎ去つた。父は今北支の山野で元氣よく活動してゐられることであらう。私は父が出征されてから一日として父のことを思ひださぬ日はない。そしてお留守になつてからこそほんたうに父の有難さがしみ〳〵感ぜられます。今は時々夢の中で父とお會ひすることがある、あの元氣で勇ましい父の姿に接する時こそ、私の最も樂しい時です。私はできる限りお母さんのお手傳をし、また簡を夫にしながら一生懸命勉強して父にお知らせしたいと思つてゐます。

どうぶつゑんのコンドル

せんしうはベルリンからトウキヤウへとんできたひからきのおはなしをしましたが、あんのひからきのなまへの「コンドル」は、「はげたか」のことです。みなさんはどぞんぢでせうか？ トウキヤウのどうぶつゑんには、せうわ七ねんに、おなじドイツからきたナンベイうまれの「コンドル」がをります。コンドルひからきのせいこうは、われわれ一ぞくのよろこびだと、おほきいはねをひろげてとくいげです。おほさかのどうぶつゑんには、そのしんせきにあたる、インドうまれの「はげたか」がゐます。

コンドルはにくをたべるとりのなかまでは、いちばんおほきいとりです。くびのまはりにまつしろいえりまきのやうなものをつけてをり、はねつゑんにゐるコンドル）をひろげると二メートルいじやうもあるのでせ、たいへんとぶちからはづよく、かぎのやうにまがつたくちばしで「こひつじ」や「こうし」などをとうげきします。せんとうきのやうです。いはのうへなどにすをつくり、しろいたまごを二つづつうみます。（しやしんは、トウキヤウのどうぶつゑんにゐるコンドル）

雨の日の遊び方

まはる ヒトとり

元氣なあそび

南谷の下で愉快に遊べる「廻るヒト取り」をおしらせします。

（用意） 運動場か廊つぢに○のやうな圓陣を描きます。

（遊び方） ヒト取りをする四人（三人でもよろしい）が陣の出發點（白丸印）に立ちます。そして四人がいつせいにジャンケンをして勝つた人から順々に→印の方向に廻るのです。相手を追越せばその人は負けとなつて、陣のまん中の「黑丸」に入れられるのです。この人はこのまゝじつと立つてゐなければなりませんが、殘つた三人のジャンケンがみんな一度にアイコが出ると、生きかへつて、またゲームをつゞけることができるのです。また、相手がイの位置に止つた場合、もしも自分がロの所で止つたとすると、イにゐた人はアウトになつて前と同じやうに中央の黑丸入りとなります。ハに止まつてゐた場合は■に止まられるとアウトになるのです。かうして、つぎ〳〵と相手を黑丸に入れ、一番おしまひまで殘つた人が勝ちです。

（規則） ジャンケンは夫の數で進んで下さい。

○ イシの勝 一つ前進
○ ハサミの勝 二つ前進
○ カミの勝 三つ前進

照宮さまの聽召された

童話「鹽賣仁吉」（一）

岸邊福雄（謹述）
（さしえ）川島はるよ

その時市男は、仁吉の前にある鹽俵を見て

「仁ちやん、この鹽を賣りに出たの、……」

「えゝ、どうでも賣りたいのです。」

「だつて、雨が降り出したよ。鹽は雨にぬれると溶けるよ、けふは駄目だから、もう一緒に帰らない。」

「えゝ、有難う、でも……どうぞ、お先きに」

と靜かにおじぎをしました。

市男は、仁吉が鹽を雨にぬらしながらも、どうしても賣らねば帰らぬといふそのわけを、早くもさとりました。お金をまうけたいのださう思ひます、いきなり自分のガマロを、仁吉の前にさし出しました。

「仁ちやん、これはネ、少しだけどもね君に上げます、受取つてくれたまへ。」

友達の親切極めての贈り物を、目の前につきつけられた仁吉は、兩手を揃へてそのガマロを受取りかけました……が、急にさしのべた兩手を後に引いて、

一坊ちやん、そのお金はほしいけれどもらひませんお母さんが、人様から、わけもなくお金を貰ふものではないといつてゐましたから、もらひません。」

ほしいけれども、貰つてはならないものを、見まいとするのでせう、仁吉は眼を閉ぢて、顔をそむけました。身ぶるひさへしてゐます。

これを見た市男は、ひどく感心して、

「仁ちやん、えらいツ。お母さんはこゝにゐないでも君は居るのと同じやうに、親のいひつけを守る……仁ちやん、君はえらい」

と力をこめて、仁吉をほめながら、

「花子、どうしよう。どうしたらいいんだらう」

妹に相談をしました。花子は、先ほどから、幼いながらも、兄さんと仁吉の美しい友達同士の歴めや、助け合ひを見てゐましたが、

「お兄さん、その鹽を買つてあげになるといいわ」

「ウンさうだ、いい事を教へてくれた、さうだ、さうしよう」

兄さんは、妹の名案に、ビヨコンとおじぎしてから、

「サ、仁ちやん、その鹽を僕が買ふよ。……だからこのお金をお取り、これならお母さんに叱られないだらう」

仁吉は、靜かに市男を見上げて、

「坊ちやん、でもこの鹽を買つてどうなさるんです」

と、ふしぎさうな顔つきで問ひかけますと、市男は「何んでもいゝサ、君は鹽を賣る人だらう。僕は鹽を買ふ人だらう。だから僕が鹽を買つて、お金を君にあげるのサ。ネ、仁ちやん、それでいいでせう」

道理をつくした市男の友情に仁吉は、ニツコリうなづきました。さうして兩手を出して、

「どうも有難う」と市男からガマロを受取りました。

▽◇△

市男は、仁吉から鹽を買ひましたが、その鹽をどうしようかと迷ひました。が、道の向側に、小さい川の流れてゐるのを見ると、その鹽を二籠とも、小川の中へザブン〳〵と投げ込んでしまひました。それから市男は、

「仁ちやん、籠を返すよ。僕はネ、妹を連れてるから失礼。僕は急いで帰るけど、君は傷の足を大事にしてそろ〳〵帰りたまへ」

と、いひおいて、兄妹はシヨボシヨボ雨の中を駆け出して行きました。

仁吉は、二人の後を見送つて、

「有難う、本當にどうもありがたう」

と一人ごとをいひながら自分がついで來た鹽が、小川に投げ込まれたが、どうなつた事やらと、その川をのぞき込みました。

△

▼二等入選作品

臨時大祭の夜

ポンペイア驛旭日小學校
第五學年生（十二才）富永加

いつもの夕飯がすむとおさらは十八日の午後十時十五分に當る、その時に一分間のお祈りをする。」と先生がおつしやつたので家を出かけた。

東の方の森の上に十五夜近い月が出て、高いかげの影が黑く土にうつゝてゐる。風もない靜かな晩だ。遠くの方で蛙の鳴く聲が聞へる。あちらこちらにぴかぴかと螢が飛び廻つてゐるのが見える。すうつと一匹眼の前を横ぎつた。學校の廣場には、もう七人が來てゐた。ガスランプの灯が教室の窓からもれてゐる。間もなく先生が「集れ」といふ合圖を、ふかれたので教室に入つた。何處にゐたのか澤山の青年や家長の人、女の人も集つて來た。

何時もの驚の勉强をするときとは何んとなく變に思はれた。先生はむづかしい言葉で日支事變の命話をされた。しかし、日本軍が南支の廣東の方に敵前上陸をした話は、よくわかつたので愉快であつた。

十時十五分近くなつたので廣場で東の方に向つて皆整列した。先生が靜かな聲で我が忠勇なる名譽の戰死者の御靈を慰めて又今戰つて居らゝる皇軍勇士の戰勝をお祈りいたしました。

「默禱」僕は眼を閉ぢてチツとしてゐた。何んとも言はれぬ感じがした。祖父が亡くなる様に思はれた。前にマリ、アの戰技會の時にも默禱をしたが。あの時とはまるで違つた氣持であつた。大砲の響き、機關銃の音、勇ましい突擊の ラッパ、萬歳々々の聲が聞へる様に思つた。

「直れ」はつと氣がついた。列んでゐた人々は、靜かにあちらこちらに帰つて行く。僕はいつまでもいつまでも東の方を見て兵隊さんの事をいろいろと考へてゐた。

ランプの灯が遠く二つ三つ動いて行くのが見える。

家に帰つてねたが、中々ねむれなかつた。

童謡 坊やの鐵かぶと

松村又一

父さん母さん見て頂戴、坊やの、坊やの鐵兜。
かぶつた姿は勇ましいでしよ
坊やは日本の軍人だ。
玩具の機關銃据ゑつけて
出てくる敵兵ねらひうち
坊やはほんとに勇ましいでしよ
坊やは大將になるんだよ。
とびゆく飛行機、よく見れば
銀色製に日の丸よ
日本の飛行機、早くて強い
ぐん〳〵飛んでく、敵陣地。

サーベルかざして勇ましく
進軍喇叭でトテチテタ
進めや進め戰線こえて
戰爭ごつこは愉快だな

童話 風の中の子供 (30)

坪田譲治

お母さんの起きない間に御飯をつくらうとした三平と善太は、大變な焦飯をたき上げた。

「いゝから、さ、二人はあつちへ行つてらつしやい。」

さうお母さんがいつても承知しないのである。

「ウウン、母さんあつちへ行つてらつしやい。ボク達二人で、おいしい御飯つくつてあげるよ。」

三平がお母さんを茶の間の方へ押し出さうとする。

「さうだよ。もう、あと譯ないや。ミソシルをつくるばかりなんだからね。」

善太もさういつて、お母さんの背中を兩手で押した。

「だめッ、だめです。」

お母さんがいつても、

「さうだい。」

「さうだい。」

と、二人はお母さんの背中と腰を力一杯押し立て、茶の間を越して、玄關の方まで押しまくつた。

「ホントに、冗談するんぢやありませんよ。」

お母さんがいつてる間に、二人は台所に馳込み、茶の間のガラス戸を閉めきつた。お母さんが開けようとすると、二人で押さへてゐるのである。

「お母さんがいつてる間に、二人は台所に馳込み、茶の間のガラス戸を閉めきつた。お母さんが開けようとすると、二人で押さへてゐるのである。」

「お母さん、七輪に火をおこすの、どうするの、兄チャン、弱つてるんだよ。」

「ホホホホ」

お母さんも笑はずにゐられない。

「お釜の下に火が殘つてるでせう。それを七輪に移すんですよ。その上に炭を入れるの。」

「なあんだ譯ないや。」

台所へ驅けてつたが、今度は火箸が見えない。

「あれッ、さつきあつたんだがなあ」

またお母さんの所へ驅けつける。

「母さん、火箸がなつかたら、どうする？」

「どうするつて、火箸をさがすんですよ。」

「ウン、兄チャン、火箸さがすんだとさ。」

さあ、火箸はあつた、火は移した。炭も入れた。鍋もかけた。

どうしたらいゝだらう。まだ三平が驅けつける。

「お母さん、鍋をかけたよ。それからどうするの？」

「おかかを入れて、野菜を切つて——。」

「分つたあ。」

みなまでいはせず、三平は走りかへる。

「おい、おかか入れるんだ。」

「それから野菜切るんだ。」

「野菜？野菜つて、何切るんだ？」

「あ、さうか。」

三平はお母さんの所へ驅ける。

「野菜つて、お母さん、なあに？」

「ネギとジヤガイモ。」

「何だい。ネギとジヤガイモ。」

台所へ驅け歸つて報告する。

「ネギとジヤガイモだとさ。」

「ネギとジヤガイモ…どこにあるんだい。」

「ええ？」

台所の仕事も大變なものである。

二億五千萬年の前の怪物の足跡

この寫眞をみれば誰だつて人間の足跡だといふでせう、とごろがこれは人間のものでなくて二億五千萬年も前の怪物の足跡だといふから驚くでせう。

▽…これはアメリカのケンタッキーといふ山の中で先ほど發見され、二億五千萬年前の地層にあたる砂岩につけられた足跡なのです。大きさは人間のものと殆ど同じで、九インチから十インチです。親指がわりに小さく、小指のつき方が人間とは違ふやうですが見たところ人間の足跡そつくりなのです。人類が二億五千萬年前に棲んでゐたとは思へないし、しかもこの足跡も前足がなくて後足だけといふのですから人間のやうに立つて歩く動物でせうし、いよ〳〵謎の怪物だといふことになります。アメリカの考古學者、動物學者は頭をひねつて研究してゐます。

◆ ◆

眞の術

（二ン）

イ 白イ馬ガ27ヒキ赤イ馬ガ34ヒキ ミンナデイクヒキニナルデセウカ
白イ馬ト赤イ馬ヲ合ストキマス。

ロ 334—31＝ 245—86＝
400—47＝ 532—29＝

（ジン三）

太郎君ノオ家カラ町マデハ43キロ有リマス。或ル日太郎君ハオ父様トイツショニ町ニ行キマシタ。ハジメニ16キロ歩イテ行キマスト、自動車ガ來マシタノデ、ノセテモラツテ町ニツキマシタ太郎君ハ幾キロ自動車ニノセテモラツタコトニナルデセウカ

（尋四）

イ 四角ノ箱ガ有リマス、其周圍ヲ計ツタラ100cm有リマシタ、其ノ一邊ノ長サハ幾cmデセウカ

ロ 10161÷13＝
48792÷57＝
6765÷123＝

（尋五）

一邊35cmノ正方形ノ面積ト縦28cm、横34cmノ短形ノ面積ハ幾平方cmドチラガ大キイデセウカ

（尋六）

銀行ニ500ミル貯金シマシタ、利子ハ一年ニ幾ラツクデセウカ
コノ銀行デハ元金ニ對シテ一年6分ノ割合ニ利子ガツキマス

先週の答

—（尋三）—
125cm—119cm＝6cm

—（尋四）—
8.5×6＝51
10＋7＋9＋9＋10＝42
51—42＝8 …（答）

—（尋六）—
10,000—6,600＝3,400
5,500—3,400＝2,100 …（答）

白羽宮士

ジン一

アカミリ
アメ
カミナリ

ジン二

＝なはとび＝

（一）は、び、（ひ）た、ん、も、の、つ、づ、で、

（二）一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

ナンベンモ書イテレンシウシナサイ
ナンベンモヨンデレンシウシナサイ

尋三

＝ごらんなさい。

ジン二

（一）と、り、な、ぜ、み、を、た、べ、

（二）白い、青い、小とり、

尋三

昔、大將の下、天地、大砲、動かす、死がい、全力、命令、來つた、勇ましい、

＝たち樣の手紙＝

「手紙」「父」「お着き」「横濱」「午後」「先祖」「正しく」「反たい」「殿」

このをち樣の手紙をなんべんもなんべんも讀んでごらんなさい、そうすると「きようりの人々のこと」「日本の小學生徒の勉強ぶり」「氣候の反たい」などがよくわかります

それでこれをお手本にして皆さんも「たち樣」「をば樣」又お友だちにお手紙を書いて